

第4次三田市一般廃棄物処理基本計画(中間見直し案)に対する市民意見の 募集結果と意見に対する市の考え方について

第4次三田市一般廃棄物処理基本計画(中間見直し案)について市民意見を募集いたしましたが、その結果と市民意見に対する市の考え方について報告します。

1 実施結果

- (1) 募集期間 令和5年4月15日～5月15日(31日間)
- (2) 件数 11件(4名)

2 意見の概要と市の考え方

- (1) 第4次三田市一般廃棄物処理基本計画(案)を修正するもの 3件
- (2) 第4次三田市一般廃棄物処理基本計画(案)を修正しないが
参考とするもの 8件

(別紙) 第4次三田市一般廃棄物処理基本計画(案)に対する市民意見の募集結果と
意見に対する市の考え方

第4次三田市一般廃棄物処理基本計画(案)に対する市民意見の募集結果と
意見に対する市の考え方について

【第4次三田市一般廃棄物処理基本計画(案)を修正するもの】

No.	項目	頁	意見の内容	市の考え方
1	土地利用状況	7	土地利用状況の「その他」の面積の項目が大きく、詳細の記載が必要ではないか。	「その他」の説明は、「その他(保安林、道路、自然公園など)」と訂正します。
2	人口動態 排出抑制・資源化に関する課題	25	例えば、結論として、「一人世帯の増加が考えられます」等の課題設定の為の解釈があっても良いと思う。	計画書P.25(3)課題の抽出に「家庭系ごみ総排出量は人口減少に伴い減少傾向にありますが、一人一日当たりのごみ排出量は増加傾向にあります。これは一人世帯の増加など世帯構成人数の減少が一因と考えられます。総務省「家計調査(2022年)」によると一人世帯の消費支出は、4人世帯の一人当たり消費支出の約2倍となっていることから、新聞購読など世帯人数の影響を受けず、世帯として消費されるものが、一人一日当たりのごみ排出量増加につながっていると考えられます。今後、再資源化可能なごみが適切に分別排出されるよう様々な働きかけが必要です。」と記載します。
3	排出抑制・資源化に関する課題 (プラスチック使用製品廃棄物の分別収集について)	25 ・ 35	子育て世帯の家庭で、4歳の子供とプラスチックごみがいかに地球によくないかという話になった際に、どうして三田市がプラスチックごみの回収をしていないのかと聞かれ、説明するのにも辛いものがあつた。一市民として、できるだけ協力はしたいので、プラスチック類を燃やすのではなく、「誰がいつまでに何をやる(分別する)」という、踏み込んだ具体的内容を計画に盛り込んでほしいと強く思います。	プラスチックごみの分別収集は、喫緊の課題と認識しており、可能な限り早期に分別収集を開始し、リサイクルに取り組んでいく必要があることから、「プラスチック製品等の分別収集を実施します」と修正します。

【第4次三田市一般廃棄物処理基本計画(案)を修正しないが参考とするもの】

No.	項目	頁	意見の内容	市の考え方
4	目標値の設定（家庭系ごみ）	27	目標値の設定について、コロナ禍云々以前に、家庭ごみ量増加の背景には様々な要因が考えられる。(例えば、職場からの持ち帰りごみの推進などを行っている企業の影響等) そのため、目標値がそもそも不適切であると思われ、目標値の変更が必要ではないか。	令和3年度の市民一人一日当たりの家庭ごみ排出量は平成28年度実績632gより1.1%増の639gと増加傾向にあります。このため、目標値は、令和9年度までに一人一日当たり排出量を601gとする当初目標値を維持します。
5	ごみ処理フロー	14	燃やすごみ処理量27,678tと選別による可燃物1,065tの合計が、焼却処理量28,718tと一致しないが、誤りではないか。	「燃やすごみ処理量」と「選別による可燃物」の合計28,743tと焼却処理量28,718tとの不一致が25t生じた要因は、年度末の3月末に収集した燃やすごみの一部を次年度の4月1日以降に処理したこと等により生じた誤差です。
6	ごみ質（組成）実績	15	オムツや吸水シートなども紙・布類として分析されていると思われるが、排泄物などが入っており、質量が増えるのは当然なので、純粋に紙・布類が突出して多いわけではないと考える。 また、このごみ質（組成）グラフは、家庭系ごみと事業系ごみを合わせたものであるのかが分からない。	オムツや吸水シートは「合成樹脂」、排泄物は「その他」に分類されるため、「紙・布類」には含まれません。 また、燃やすごみのごみ質（組成）は、ごみピットから採取した試料を分析しているため、家庭系ごみと事業系ごみを合わせたものとなります。
7	食品ロス量	32	日本の「食品ロス量」約522(万)tのうち、事業系が約275(万)t、家庭系が約247(万)tとのことであるが、家庭系の食品ロス量は、いかに算出しているのか。	家庭系ごみの食品ロス量は、食品廃棄物を分別収集している市区町村の実績など全国の市区町村のアンケート調査結果を基に推計しています。
8	家庭系ごみの減量化・分別排出の徹底	33	行政の取り組みとして、家庭系ごみハンドブックもよいが、AIを駆使して、アプリケーションを開発してはどうか。	令和4年4月から、市公式LINEにごみ検索ナビ（「家庭ごみ分別検索」及び「家庭ごみの収集日検索」）を設け、サービス向上に努めているところです。 ご提案のアプリケーション導入については、今後の検討課題とさせていただきます。

No.	項目	頁	意見の内容	市の考え方
9	家庭系ごみの減量化・分別排出の徹底	33	市民の取り組みとして、生ごみの水切りを徹底するのも良いが、ごみ乾燥機のようなものの補助があってもよいのではないか。	新たな補助制度の導入は予定していません。生ごみの「水切り運動」へのご協力をお願いします。
10	計画全体を通して	—	計画のボリュームが多すぎ、全体像を把握しづらいと感じた。パワーポイント等で計画概要版を作成し、インターネットで読み取れるようにしてほしい。 また、全体を通して、どの部分を見直し、どう計画を変更したのか分かりにくく感じた。	計画概要版は、今後、市ホームページに掲載予定です。 計画の見直し・変更内容については「現行計画の変更内容について（A3版）」によりお示しいたところ です。
11	食品ロス削減に向けた取り組みの推進	31	フードバンクやフードドライブの推進について、スーパーマーケットに食品の提供を持ち掛けても、人手、手間の観点から、協力は得にくく、食品ロス削減効果は少ないと思われる。 そこで、事業系廃棄物をクリーンセンターへ収集したあとに、市民ボランティア（ごみ減量推進員等）が、廃棄物の選別をし、子ども食堂に持っていくなどの仕組みを構築し、フードバンクやフードドライブを推進すれば、食品ロス削減が進むと考える。	事業系廃棄物をクリーンセンターへ収集した後に食品を選別して子ども食堂に持って行くことは、衛生上の問題があるため実施できません。 食品ロス削減については、「買いすぎゼロ」、「作りすぎゼロ」、「食べ残しゼロ」の三ゼロ運動の推進や、スーパー等と連携した生鮮食品などの「てまえどり運動」を推進するとともにフードドライブ協力店の拡充などに取り組んでいきます。